

令和6年度 板橋区立志村第二中学校 授業改善推進プラン

教科名

社会

	学力調査・体力調査・定期考査等の分析	指導方法の課題	授業革新に向けての具体的な手立て
7 学 年	・ 考査の結果が20点未満の生徒は、書字・識字障害や学習障害の疑いがあったり、日本語の理解が難しい生徒が多い。それ以外の生徒は学習方法がわからず、学習意欲が不足している。高得点をあげている生徒は授業中ノートをしっかりとるなどの努力をしている。	・ 考査前に基礎事項を列挙したプリントをつくり、学習するように勧めれば得点がもう少し伸びると思われる。学習方法がわからない生徒の取り掛かりになる。学習方法などについて日頃から授業中に話していくことも必要である。	・ 教科書をしっかりと読ませるために、教科書の内容に沿った課題プリントを作る。プリントの課題については、これまで通り4人グループで考えさせる取り組みを続けていく。また、PCで提出する課題を考えて行わせる。
8 学 年	・ 小テストを章ごとにやっているが、いきなりの問題に弱い。考査はこの小テストをベースに作成したので準備をした生徒は得点を上げている。今後は急な出題にも対応できる臨機応変な力が必要である。	・ 考えさせる問題を出してオクリンクで提出させる課題には熱心に取り組んだので、そのような発問の工夫が必要だと感じる。課題の提出方法もオクリンク以外に考える。工夫一つで生徒の意欲を引き出すことができる。	・ オクリンクでスライド作りの課題を与えて発表させる。今までは作成後の発表がなかったので、発表させてそれを評価する。グループ内での話し合いをさせて、それを発表させる。課題の内容を慎重に考える。
9 学 年	・ 公民になって学習方法がわからないと訴える生徒が多い。小テストを大切にするようにアドバイスしたが、憲法の暗記などは難しかった。領域診断テストの結果が二極化している。考査ができていないのに、点数が取れない生徒もいた。受験勉強も意識させる。	・ 公民では一方的に話すことが多かったので、安楽死の問題に関してはオクリンクでその意見を送らせた。現代の問題を扱うものも多いので、どう考えるかを表現させることが必要である。憲法に関しては中学校ではあまり触れない裁判の話をしたが、それを生徒に調べさせることも必要だった。	・ 教科書内にある問題に関してどのように考えるかというアクティビティが用意されているので、それを利用して討論やグループワークなどをさせる。オクリンクで送らせることが多いが、他の形式でも提出させる。